

初夏の花 満開のスイスアルプス ハイキング アルバム

2008.6.29. - 7.8. 0808switz00.htm by Mutsu Nakanishi



7月の初め 10日間のスイスアルプスのツアーに行ってきました。
 ツアーといっても大手のツアーと違って トラマークの旅行社が主催する少人数とゆっくり連泊が売りのツアーで気楽なので、何回か参加したのですが、今回は6名の個人旅行見たいなもの。 ハイデッカーバスを占領し、ホテルはすべて山を部屋から見上げるとびらきりのスペース。
 雪が消え、一斉に初夏の花が咲く花のスイス アルプス季節。
 氷河を抱いたアルプスの峰々とそれを背景に高山植物満開のお花畑ハイキングも堪能してきました。

まだ、写真整理できていませんが、そんな写真の羅列です。

1. 雪が消えて アルプスの山々には 初夏の花が満開

初夏の花といえば 岩肌へばりつくエーデルワイスにアルペンローズも。
 ただ、エーデルワイスはほとんど山では見られないのには以外でした。
 でも、栽培されたのとま違う野生のエーデルワイスをマッターホルンの岩影で一株見つけました。
 まだ、季節的には早いのか、まだ、花がさいておらず、葉の襟子がちょっと違うので、とまどいましたが……。



アイガー氷河が削った谷のお花畑



エーデル、ワイス



野生のエーデルワイス



高山植物でまっ黄色のユリア峠



アルペンローズの群落



ふフインデル氷河が削った谷で



アイガー氷河が削った谷のお花畑 2008.7.1.

2. 「エーデルワイスの花ほほ笑みて 鋭き岩肌 金色に照り
山は目覚めぬ 夏の朝風 雷雲 収まり 夕空晴れぬ
命のザイルに わが身をたくし 思わず仰ぐ アルプスグリュエーン」

インターネットで調べた予想に反して、天候に恵まれ、サンモリッツで「ピッツ ペルニナ」 ツェルマットで「モンテローザ、マッターホルン」 シャモニーで「モンブラン、ドリュール」 グリンデルワルドで「ユングフラウ、アイガー、メンヒ」

氷河を抱く頂上すべてを見られました。
また、モンブランでは吹雪でロープウェイが動かず1時間ほど閉じ込められましたが、そんな吹雪の中 ザイルをつないで 出発する登山パーティの姿を楽しんだり、久しぶりに冬の雪山に入った気分も。

「エーデルワイスの花ほほ笑みて 鋭き岩肌 金色に照り
山は目覚めぬ 夏の朝風 雷雲 収まり 夕空晴れぬ
命のザイルに わが身をたくし 思わず仰ぐ アルプスグリュエーン」

昔よく歌った山男の「エーデルワイス」の歌ですが、まさにこの光景をみながら 歌っていました。

また グリンデルワルドの夜明け アルプスにかかる虹も……
紺碧の湖に映るマッターホルン、そして アイガー北壁もしっかり見えてきました。
また、氷河が岩肌をけずった水が流れ込む森の中の小さな湖「グレーシャープブルー」というのだそうですが、ほとりに花が咲き乱れる白濁した青緑の湖が印象的でした。

■ 今回出会えた アルプスの峰々



カイスの最高峰 モンテザ



ヨーロッパの最高峰 モンブラン



アルプスのランドマーク マッターホルン



垂直の岩壁 アイガーの北壁



綺麗な山 ユングフラウ



アイガーの隣でモルゲンロートに染まるメンヒ

■ マッターホルン



夜明け前



モルゲンロート



青空に聳える



湖に姿を映す

氷河の水で白濁した青緑グレーシャープブルーの湖の背に

■ モルゲンロート & アーベントロート そして アルプスの上に二重の虹がかかりました

エーデルワイスの花 はは笑みて
 鋭き若角 金色(コンジキ)に照り
 山は目覚めぬ 夏の朝風
 乱雲おさまり 夕空晴れぬ
 命のザイルに 我が身をたくく
 思わず仰ぐ アルペングリュエーエン



アイガー北壁の山に二重の虹



左 谷の眺め 中 アイガー北壁 右 ヨッホの街



アイガー北壁の夜明け



夕日に染まるアイガー北壁

3. スイス アルプスは『鉄のモニュメント』『鉄の郷』

神戸に帰って 仲間が言うのですが、「さすがに スイス アルプスには『鉄』はなかったやろ」と……。
 そんなことはありません。 スイスには 世界的な『鉄のモニュメント』『鉄の郷』が多数あり。

スイスは鉄道王国 アルプスの峰 谷 峠を越える路線が張り巡らされ、山にはアプト式の登山電車が延々と頂上へ
 なんせ アイガーはその山体の中をループ状にトンネルがほられ、垂直に切れ落ちる北壁の中央部には駅があり、北壁の窓から外がのぞけ、
 ヨングフラウ肩のところ『ヨッホ』まで、電車が登る
 線路の真ん中に真っ直ぐ ラックレールが伸びて山へ向かう登山電車
 その心地よい響きは紛れもなく、ここスイスが『鉄のモニュメント』『鉄の郷』
 また、ミニ蒸気機関車が客車を押しながら登るルートホルン鉄道も……

また、乾足ながらスイスアルプスの山々は氷河にその岩肌を削られ、幾重にも複雑に重なった地層が見え、谷には複雑な地層変化が顔を出す。
 そんな姿はアルプスにいたるとまるで、鉱物資源が顔を出しているに違いはないと思わせる。
 そんな マツターホルン周辺の氷河が削った青い谷では磁石が青い石に吸い付けられました。
 角閃石質の青い谷がひろがって、そんな岩には磁石が吸い寄せられました。
 もっとも 氷河が岩をけつて流れ下る河は白濁した急流で 砂鉄はまったくありませんでした。

■ アイガー北壁のちょうど 真ん中にアイガーヴァント駅がある 肉眼を凝らすとその窓が見え、夜には灯りがともる



アイガーの山の中を割って、ヨングフラウ ヨッホへ登山電車の鉄路が延びる
 その垂直な岩壁 北壁はクライマーの憧れ その中央に割られた窓 アイガーヴァント駅

■ アルプスの氷河の谷に峠を越えて伸びる 氷河特急



■ おもちゃのようなSLがプリエンツ湖の岸からロートホルンの山を登る



■ マッターホルンの谷は青い谷 その岩に磁石が吸い寄せられた



グレンツ氷河の下で

フィンデル氷河の下で

磁石が吸い寄せられた マッターホルン周辺 青い谷



磁石が吸い付いた青い石 赤や黒とある鉱物の入った石

マッターホルンの谷で拾った磁物を含む石

